

# 日本気象学会 1998 年度秋季大会

会期: 1998 年 10 月 20 日(火)~22 日(木)

会場: 宮城県民会館(仙台市青葉区国分町三丁目 3 番 7 号)

仙台市民会館(仙台市青葉区桜ヶ岡公園 4 番 1 号)

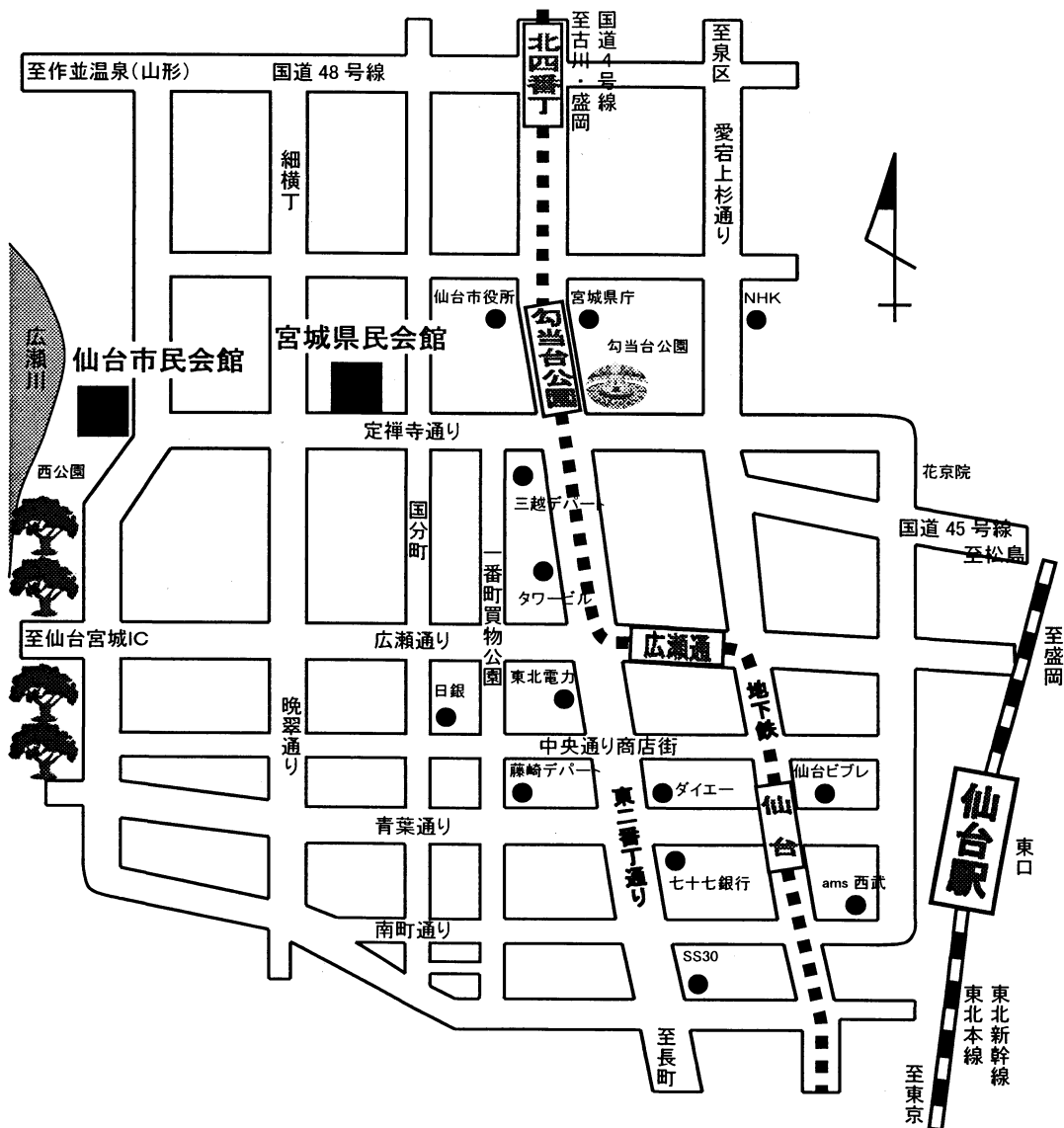
当日の会場への連絡方法: 大会実行委員会事務局(宮城県民会館 603 小会議室)

電話&FAX: 022-714-8628

E-mail: jmetsoc@excite.co.jp

## 会場案内図

地下鉄勾当台公園駅下車徒歩 10 分



## 大会行事予定

A会場：宮城県民会館601(大会議室)      ポスター会場：宮城県民会館501, 502(展示室)  
 B会場：宮城県民会館602(中会議室)  
 C会場：宮城県民会館401(教養室)      大会事務室：宮城県民会館603(小会議室)  
 D会場：仙台市民会館小ホール      休憩室：宮城県民会館403(和室)  
 シンポジウム：仙台市民会館小ホール      懇親会：仙台市民会館展示室

( )は講演数, - は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場
10月20日 (火)	09:30～ 12:00	<b>大気陸面相互作用</b> (11, A101～A111) -石田祐宣-	<b>メソ降水系Ⅰ</b> (11, B101～B111) -坪木和久-	<b>微量気体・物質輸送</b> (10, C101～C110) -井口敬雄- <b>エアロゾル</b> (4, C111～C114) -渡辺征春-	<b>熱帯</b> (15, D101～D115) -石島 英-
	13:30～ 16:00	<b>大気海洋相互作用</b> (14, A151～A164) -尾瀬智昭-	<b>メソ降水系Ⅱ</b> (11, B151～B161) -永田 雅-	<b>エアロゾル(続)</b> (6, C151～C156) <b>オゾン</b> (8, C157～C164) -中島英彰-	<b>雲物理</b> (13, D151～D163) -山田芳則-
	16:10～ 17:30	ポスター・セッション (A, B会場で概要紹介後, ポスター会場で講演)			
10月21日 (水)	09:15～ 11:30	<b>気候システムⅠ</b> (12, A201～A212) -谷本陽一-	<b>メソ降水系Ⅲ</b> (14, B201～B214) -遠峰菊郎-	<b>中層大気</b> (14, C201～C214) -下舞豊志-	<b>観測手法</b> (9, D201～D209) -青梨和正-
	13:00～ 15:00	山本正野論文賞・堀内賞授与・奨励金贈呈 理事長就任講演「新しい現象論-衛星観測のもたらしたもの」, 山本正野論文賞・堀内賞記念講演			
	15:00～ 17:00	シンポジウム 「大気と海洋-地球温暖化をめぐる-」 司会：田中正之 話題提供：真鍋淑郎・須賀利雄・中澤高浩 コメント：石川孝一			
	18:00～ 20:00	懇親会			
10月22日 (木)	09:15～ 10:50	<b>気候システムⅡ</b> (9, A301～A309) -山崎信雄-	<b>中高緯度大気</b> (8, B301～B308) -平沢尚彦-	<b>放射</b> (8, C301～C308) -深堀正志-	
	11:00～ 12:15	ポスター・セッション (A, B会場で概要紹介後, ポスター会場で講演)			
		<b>パネルセッション</b> <b>「TRMMとその初期結果」</b> (16, A351～A366) -中村健治- -中澤哲夫- [13:00～17:30]	<b>大気力学</b> (19, B351～B369) -石岡圭一-	<b>環境気象・境界層</b> (16, C351～C366) -福山 薫- -中川清隆-	

発表件数：325件 (口頭発表238, ポスター97)

講演・質疑時間：7分と2分。

大会参加費：郵便振替による前納の場合 一般会員 2,000円, 学生会員 1,000円;  
 当日受付の場合は 一般会員 3,000円, 学生会員 2,000円, 非会員 3,000円。  
 懇親会費：郵便振替による前納の場合 一般会員 4,000円, 学生会員 3,000円;  
 当日払いの場合は 一般会員 5,000円, 学生会員 4,000円, 非会員 5,000円。

大会当日は混雑しますので、極力前納されるようお願いいたします。

なお郵便振替用紙は「天気」6月号の末尾に挿入されたものを使い、10月5日までに振り込んで下さい。

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは〒305-0052つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (FAX:0298-53-8649, e-mail:org-msj@mri-jma.go.jp)まで。

## シンポジウム 「大気と海洋—地球温暖化をめぐる—」

日時：大会第2日（10月21日）15:00～17:00  
会場：D会場（仙台市民会館小ホール）  
司会：田中正之（東北大学理学部）

### 趣旨

地球表面の70%を覆っている海洋は、大気、海洋、陸域、氷圏の熱的慣性の大部分を担っており、地球上の熱輸送に大きく寄与し、大気中の水蒸気の大部分の供給源となっている。海面水温、海水の広がりや厚さ、海氷上のアルベドと氷のない領域のアルベド、海面塩分、表面の二酸化炭素分圧などの表面の各要素の変動を通じて大気との相互作用が行われている。このように、海洋は、平均の気候状態、気候の年変化、および数千年におよぶ時間スケールの気候を決定する気候系の主要な要素である。

本シンポジウムでは、このような大気と海洋の相互作用の重要性を念頭におきつつ、気候変化の将来見通しや気候変化における海洋の役割を大気海洋結合モデルによる計算結果をもとに、また、海洋の表面・表層を中心とした要素の長期的な変化の実態を観測・解析結果をもとに議論し、大気と海洋の相互作用に代表される気候システムの観測・解析・モデリングについての理解を深めるとともに、今後の研究・観測の展望を議論することを目的としている。

### 基調講演

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| ・「地球温暖化における海の役割」       | 真鍋淑郎（地球フロンティア研究システム） |
| ・「北太平洋における大規模大気海洋相互作用」 | 須賀利雄（東北大学理学部）        |
| ・「炭素循環における海洋の役割」       | 中澤高清（東北大学理学部）        |

### コメンテーター

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| ・「西太平洋域に見る海洋の年々変動」 | 石川孝一（函館海洋気象台） |
|--------------------|---------------|

### 研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。詳しい案内はプログラムの最終ページをご覧ください

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| ・「気象学に開かれゆく世界」 | ・極域・寒冷域研究連絡会      |
| ・メソ気象研究会       | ・第15回IGBP/GAIM研究会 |

### 講演企画委員会からのお知らせ

#### ポスター発表に関する注意事項（重要!）

- ポスターの掲示場所はポスター会場の壁面で、一人当たりの幅は約1mとなっています。高さについては、床面から天井（約2.5m）までがすべて使えます。
- ポスターの掲示の際、テープ類や釘は使用禁止です。押しピンまたは画鋲を各自で用意して下さい。
- ポスターの掲示可能時間は、
  - ・第1日の発表者は10/20 09:30-10/21 12:30
  - ・第3日の発表者は10/21 12:30-10/22 15:00
 とします。

#### 口頭発表の講演時間

告示の際にもお知らせしたとおり、今回から口頭発表に「第1種/第2種」の区別はなくなり、一人当たりの発表時間は、全時間を申込件数で等分したものを目安として講演企画委員会が決定することとしています。

今回については、講演時間を7分・質疑時間を2分といたしますのでよろしくお願ひします。

#### 春季大会の予告

1999年度春季大会は、1999年4月26日(月)～28日(水)に気象庁とKKR東京で開催されます。大会告示は「天気」12月号に掲載します。

春季大会の発表申し込み締め切りは1999年2月中頃となる予定です。

この大会は過去2回と同じく、一般発表と特定のテーマに基づく専門分科会とから構成されます。一般発表は原則としてポスターとしますが、ポスター会場のキャパシティに限界があることと、アンケートに寄せられた意見の中に、口頭による一般発表を希望する声があったことから、部分的に「口頭による一般発表」を導入することを検討しています。

発表方法は講演申込時に選択できるようにしますが、必ずしも希望通りにはならない可能性があります。

なお、現在、専門分科会のテーマ及びコンピーナーを募集しています（締切は10月14日）ので、ふるってご応募下さい。募集要項は「天気」8月号に掲載されています。

## 大会第1日 [10月20日] 09:30~12:00

(~~~~)は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## 大気陸面相互作用

座長: 石田祐宣(弘前大理工)

- A101 江守正多・高田久美子(国立環境研)他3名 気候研究用の陸面過程モデルMATSIRO<sup>®</sup>の開発
- A102 高田久美子・江守正多(国立環境研) 陸面過程モデルMATSIRO<sup>®</sup>の流域水収支による検証
- A103 高森出(気研・環境) 陸面過程モデルと流出モデルの結合について
- A104 山崎剛(東北大理) 陸面モデルによるGAME/Siberiaタイプ林でのフラックス推定(序報)
- A105 馬淵和雄(気研・気候), 佐藤康雄(気研・環境)他1名 気候モデルを用いた大気中CO<sub>2</sub>濃度の変動と大気-植生相互作用の関係に関する数値実験
- A106 近藤純正(東北大名誉教授) 各種植生地における蒸発散量観測のまとめ
- A107 藤生稔(資環研), 篠田雅人(都立大) 植生指数と乾燥指数による乾燥地域の分類
- A108 宮崎真・安成哲三(筑波大地球)他1名 モデルにおける気候の季節変化への地表面-大気相互作用の役割
- A109 松島太(東北大理), 檜山哲哉(名大水圏研)他2名 風向に沿った土地被覆の変化による影響を考慮した広域地表面フラックスの推定
- A110 千喜良徳・阿部彩子(東大気候システム)他1名 6千年前のオホカにおける大気-植生相互作用の検討
- A111 二ノ瀬俊明(フライング大), 浦野明(大成建設) 日本の近世以降の土地利用変化がもたらした局地的な気候変動

## B会場

## メソ降水系 I

座長: 坪木和久(名大水圏研)

- B101 山田芳則(気研・物理) 日本海降雪雲内における降水以外の水物質のリターン
- B102 浅井富雄(科学技術振興事業団), 坪木和久(名大水圏研) 冬季日本海の収束帯に発生するメソスケール低気圧の多重構造と発達メカニズム
- B103 渡辺明(福島大教育) 冬季筋状雲付近の運動場について
- B104 柴村孝嗣・小林文明(防大地球)他1名 冬季北陸地方における雷雲の構造と落雷の形態
- B105 道本光二郎(防衛庁), 柴村孝嗣(防大)他1名 1997/98冬季雷雲下の車両搭載電界計による移動観測結果[V]
- B106 猪上淳・川島正行(北大低温研)他1名 噴火湾に発生する筋状雲の数値シミュレーション
- B107 川島正行(北大低温研) 中緯度スコールラインの数値実験-その周期的変動と慣性重力波の励起-
- B108 古本淳二・津田敏隆(京大超高層) MURKIN-RASSによる対流圏界面付近の重力波・乱流の微細構造の観測
- B109 広司拓哉・上田博(北大院理)他3名 層状性降雨の特性に関するドップラーレーダー観測
- B110 永戸久喜・加藤輝之(気研・予報)他3名 気象研究所非静力学モデルによる層積雲の数値シミュレーション
- B111 忠田隆・木村龍治(東大海洋研)他1名 開聞岳に現れた笠雲とその周囲の大気の鉛直構造

## ポスター・セッション [10月20日] 16:10-17:30

(発表者はプログラム3ページ目の「ポスター発表に関する注意事項」お読み下さい)

概要紹介(1件1分以内)の後, ポスター会場で講演を行う。講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。

## 概要紹介: A会場

司会: 松山 洋(都立大)

- P101 岩下広和・篠田雅人(都立大理)他2名 アフリカ・サハラ地域の土壌水分量のモデルによる再現
- P102 徐健貴(東北農試), 萩野谷成徳(気研・物理) チベット高原の地表面熱・水収支(1)土壌水分量による検証
- P103 増田耕二(都立大理) 再解析気象データによる海洋のエネルギー輸送推定の予備評価
- P104 岡田格(科学技術振興事業団), 高村民雄(千葉大環境リモン) GMS5の日変動データによる地表面温度の推定
- P105 園林昌宏・村田功(東北大理)他1名 高高度気球搭載光学オゾンソナーのゴストラの揺れの問題
- P106 北村祐二・松田佳久(東大理) 回転球面上における発散性乱流
- P107 Z. M. Tan (Inst. Global Change Res.), T. Takeda (名大水圏研) Frontal Collapse and Collisions in Unbalanced Frontogenesis Model: the role of geostrophic adjustment
- P108 山田嘉典(通総研), 福西浩(東北大院理)他2名 OH大気光で観測された中間圏界面における砕け波

- P109 谷田貝亜紀代(NASDA/EORC), 住明正(東大気候システム) 乾燥空気の熱帯域への侵入現象の気候学的特徴
- P110 西憲敏(京大理), 山中大学(神戸大自然)他6名 インド洋高層観測データに基づく赤道大気の解析(序報)
- P111 宮崎保彦(気象衛星セ) 対流圏上層の負の渦度と弱い熱帯低気圧の発生
- P112 末次正輝・川村宏(東北大院理) 日本南方海域における停滞する台風に対する海面水温応答-広域SST降下と台風へのフィードバックの可能性-
- P113 片岡久美(お茶の水女大・人間文化) 北太平洋西部における台風の平均像について
- P114 長田和雄・木戸瑞佳(名大STE研)他3名 北極圏・ユーロシヤにおける冬季地上大気中のアモニア濃度-2
- P115 原圭一郎・長田和雄(名大STE研)他2名 冬季北極大気中の無機臭素化合物の挙動
- P116 田口彰二(資環研) 全球移流拡散モデルを用いた二酸化炭素の発生源の推定

## 大会第1日 [10月20日] 09:30~12:00

(~~~~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## 微量気体・物質輸送

座長：井口敬雄(京大理)

- C101 箕野泰弘・横田達也(国立環境研)他3名 ILASデータ処理プログラムのVersion4改訂に向けて
- C102 中島英彰・笹野泰弘(国立環境研)他3名 ILASで観測された冬～春期極渦内外でのオゾン及び窒素酸化物の挙動について
- C103 三枝信子・村山昌平(資源研)他2名 渦相関法によるCO<sub>2</sub>・H<sub>2</sub>Oフラックスの長期測定
- C104 町田敏暢(国立環境研), 中澤高清(東北大)他5名 西シベリア上空における大気中CH<sub>4</sub>, CO, N<sub>2</sub>O濃度の時間的空間的変動
- C105 青木周司(東北大), 橋田元(極地研)他9名 大気球を用いた南極成層圏大気の大気化学プロセスの観測実験
- C106 井口敬雄・木田秀次(京大理) 3次元輸送モデルを用いたシミュレーションによる大気CO<sub>2</sub>収支の研究
- C107 田中泰由・田中浩(名大水圏研) 放射性トレーサーによるエアロゾル化学輸送モデルの検証
- C108 竹村俊彦(東大気候システム), 岡本創(通総研鹿島)他3名 炭素系・硫酸塩・土壌性エアロゾルのモデルによる全球分布と季節変動
- C109 安永数明・木田秀次(京大院) 3次元化学輸送モデルを用いた対流圏硫酸エアロゾル分布の数値シミュレーション
- C110 池田敏・田近英一(東大理) 氷期・間氷期変動における大気CO<sub>2</sub>濃度の制御要因

## エアロゾル

座長：渡辺征春(名大STE研)

- C111 藤原辰雄(北大低温研), 高橋庸哉(北教大)他3名 On abilities of NO<sub>3</sub><sup>-</sup> in solid precipitation participating in long range transportation
- C112 石坂隆・吉田耕治(名大水圏研) 霧の形成初期段階におけるエアロゾル粒子の化学組成の変化
- C113 辻田禎子・石坂隆(名大水圏研)他2名 乗鞍岳における霧水中及び大気中有機成分の特性
- C114 張代淵・石坂隆(名大水圏研) 大気中のガスによる酸性霧の形成過程に関する数値実験

## [ポスターセッション(続き)]

- P117 村山利彦(東京商船大), 杉本伸夫(国立環境研)他日本における黄砂のライダーネットワーク観測1997, 1998
- P118 栗田進(気研・環境), 加藤真規子(気研・物理)他7名 草から微粒子の再飛散(風洞及び野外実験)
- P119 澤康介(気研・環境), 松枝秀和(気研・化学)他6名 インドネシア及び北西部オーストラリア上空での一酸化炭素濃度観測
- P120 柴崎和志(國學院大/NASDA・EORC), 小川利紘(NASDA/EORC) 極渦内外の波動活動
- P121 松川茂久・北和之(東大理)他 航空機観測された空気塊の組成による分類と気象学的指標との比較

## D会場

## 熱帯

座長：石島英(琉球大理)

- D101 吉谷田弘子(茨城大院理工), 長谷部文雄(茨城大理) 赤道太平洋域における大気物理学過程の解析
- D102 村田文絵・山中大学(神戸大自然)他6名 インドネシアにおける対流性降水雲に関する研究(第1報)
- D103 岡本典子・山中大学(神戸大自然)他6名 インドネシアにおける風速場の季節・経年変動の観測
- D104 高橋清利(気研・気候) GMSマルチレベル雲量データによる対流活動日周期変化と半日周期変化
- D105 大野裕二(通総研), C. R. Williams(NOAA Aeronomy Lab.)他1名 NOAA太平洋ワイドエリアネットワークを用いた熱帯降雨の解析
- D106 森正(気研・台風), 米山邦夫(海洋科学技術セ)他3名 「みらい」ドップラーレーダー等を利用した熱帯海洋上での解析の試み
- D107 別所康太郎(気研・台風) NDからみた台風における積乱雲の日変化(その2)
- D108 和田真義(気研・台風) 発生期の台風9507号(JANIS)の内部構造と環境風
- D109 水野孝則(気研・海上気象), 石川孝一(函館海台)他1名 西部熱帯太平洋で発生した水温負偏差と台風9626号について
- D110 N. T. Servando・石島英(琉球大理) A Numerical Study on the Interaction of Two Tropical Cyclones with the Nondivergent Barotropic Model
- D111 筒井純二・平口博丸(電中研)他1名 台風の再現性に関するNCARコミュニティ気候モデルの相互比較
- D112 村田昭彦(気研・台風), 斉藤和雄(気研・予報)他1名 気象研究所非静力学モデルを用いた台風の数値実験(序報)
- D113 上野充(気研・台風) 精度評価に基づいた台風モデル改良の試み
- D114 那須野智江(東大院) 熱帯低気圧モデルにおける対流のパラメタリゼーション-Kuoのパラメタリゼーションの改善PART3-
- D115 太田和良(東大理) 東西非一様な海面水温の下でのスーパーグラスと惑星規模の東進重力波

- P122 田村耕二・柴田隆(名大STE研)他3名 チベット高原上空に発生するオゾン極小域～拉薩におけるライダーおよびオゾンデータ観測～
- P123 小泉耕(気研・予報) ニュールネットワークによる降水量予測(序報)
- P124 納豆恭明・柳錦平(防災科研)他8名 雪形の現状と科学的な意味について
- P125 岡本美三(気象庁数値) 1次元変分法を用いたTOVS放射データの同化

大会第1日 [10月20日] 13:30~16:00  
( )は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定

A会場

B会場

大気海洋相互作用

座長:尾瀬智昭(気研・気候)

- A151 石井正好(気象庁エルニョ監視セ) 気候の監視と予測のための海洋データ同化~海面高度観測の導入~
- A152 宇都宮好博・坂井紀之(気象協会)他2名 デジタル化された神戸コレクションの活用
- A153 和田真義(気研・台風), 眞鍋輝子(気象庁海上気象) 北太平洋における海上気象の長期変動
- A154 川村宏(東北大院理), 武田広幸(ジャステック)他1名 昇温期の北太平洋亜寒帯域海面水温の上昇を抑制する下層雲の放射強制
- A155 村治能孝(エシシエアリソ), 田中正之(東北大) 一年氷の熱力学成長に関する数値シミュレーション
- A156 山崎信雄(気研・気候) 1959-1975年におけるエルニョがアジアモンスーンにおよぼす影響
- A157 栗原和夫・小林ちあき(気象庁エルニョ監視セ) エルニョ現象時に海面水温が太平洋熱帯大気循環へ及ぼす影響
- A158 F.-F. Jin(Univ. of Hawaii), 本本昌秀(東大気候システム)他1名 環太平洋10年規模振動における中緯度-熱帯相互作用
- A159 宏寛奈津子・木本昌秀(東大気候システム) 海面水温偏差に対する大気の応答:(1)エルニョ時の非断熱効果の3次元分布
- A160 谷本陽二(都立大), 謝尚平(北大地球環境) 環大西洋の大気海洋相互作用場における10年スケール変動
- A161 謝尚平(北大地球環境), 谷本陽一(都立大地理)他1名 熱帯大西洋南北シソー振動:自励振動, それとも強制振動か
- A162 植田宏昭(気研・気候) 海面水温の季節変化における大気海洋相互作用 -その1:地域差異と大陸加熱の影響-
- A163 眞田賢彦・B. Wang(ハワイ大)他1名 全球SSTの十年から数十年スケールの変動
- A164 山田和貴(東電エネルギー環境研), 八牧幸子(富士通)他1名 太平洋海面水温の自然変動と温暖化の空間パターンの類似性(3) モデル間の相互比較

メソ降水系II

座長:永田 雅(気象庁数値予報)

- B151 林泰一(京大防災研), 武辺正就(福岡管区)他1名 1997年10月14日,九州北中部で発生した強風災害について
- B152 佐藤男・山崎正紀(東大理) 熱帯のスケールクラスターのモデルにおける雲氷生成量の評価方法と観の表現について
- B153 歌麿(名大圏研), 藤吉康志(北大低温研)他2名 発達中のスケールのトッパラレーダ観測
- B154 佐々木佳明・真木雅之(防災科研)他3名 1996年7月3日, スケールの事例解析(その3)
- B155 加藤輝之(気研・予報), 新野宏(東大海洋研) 1997年7月9日の出水豪雨の発生・維持機構について(序報)
- B156 加藤輝之(気研・予報) 1998年8月4日新潟地方で発生した豪雨の発生機構について(速報)
- B157 荒生公雄(長崎大環境), 壺井美花(長崎大総合情報セ)他2名 長崎半島付近で発生したライン状降雨-1997年7月11日-
- B158 陳敬陽・上田博(北大院理)他16名 Analysis of Precipitating Mesoscale Systems Using Diagnostic Items on Data of the Baiu Season in Nagasaki, 1997
- B159 二宮浩三(東大気候システム) 梅雨前線のCloud Clusterに及ぼす中緯度擾乱の影響
- B160 鈴木賢志(山口大農), 米山邦夫(海洋科学技術セ)他1名 1998年5月30日に「みらい」トッパラレーダで観測された梅雨前線内で発生した降水システムについて
- B161 鈴木修(気研・衛星) 1996年7月5日千葉市周辺で発生した竜巻親雲の気流構造-変分法を使った解析-

ポスター・セッション [10月20日] 16:10-17:30

(発表者はプログラム3ページ目の「ポスター発表に関する注意事項」お読み下さい)

概要紹介(1件1分以内)の後,ポスター会場で講演を行う 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。

概要紹介: B会場

司会:藤部文昭(気研・予報)

- P126 井上孝洋・後藤伸寿(高度情報科学技術研究機構)他3名 並列化気候モデルの特性評価(第1報)
- P127 橋本幸恵・増田耕一(都立大理)他1名 「再解析」4次元同化データによる全球水収支-流域陸水貯留量の季節変化-
- P128 且下博美(電中研), 木村富士男(筑波大)他2名 首都圏の土地利用変化に伴う地域気候変化
- P129 浜田純二(京大超高層), 山中大学(神戸大自然)他2名 インドネシアスマトラ州における降水量の季節内変動
- P130 加藤忠之・平口博丸(電中研)他5名 地球温暖化に伴う東アジア地域の気候変化予測(2) CSM/RegCM2.5を用いた梅雨期の気候シミュレーション
- P131 遠藤伸彦・中田彩子(筑波大)他6名 チベット高原アムドにおけるGAME/TIBETラジオゾンデ集中観測
- P132 木下真美・加藤真規子(気研・物理)他1名 対流境界層の風洞実験
- P133 金久博忠(気研・予報) 中規模の流れに対するEkman Pumpingの公式
- P134 石川裕彦(京大防災研), 塚本修(岡山大理)他 GAME/Tibetにおける接地層観測(概説)
- P135 木谷研(東北大理) レダールメタス解析雨量データによる冬季の降水量分布特性
- P136 吉川浩司・上田博(北大院理)他15名 1997年7月8日西彼半島に強雨をもたらした雲の発達過程
- P137 酒井亮太(大阪管区), 北島尚子(気研・台風) 1994年9月22日の宮城県の大雨(2)

## 大会第1日 [10月20日] 13:30~16:00

(~~~~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## エアロゾル[続き]

- C151 酒井哲・柴田隆(名大STE研)他4名 ライトライターによる対流圏エアロゾル消散係数・後方散乱係数の測定
- C152 渡辺征春(名大STE研), 林政彦(福岡大理)他5名 ビナホ火山噴火以後の成層圏エアロゾル層: 粒子数濃度の経年変動
- C153 齋藤尚子・林田佐智子(奈良女大)他2名 ILASがとらえた1996/97年冬季北極域PSCの特徴と空間分布
- C154 佐藤和史・藤原玄夫(福岡大理)他8名 Ny-Ålesundにおける成層圏エアロゾルのライター観測-1994年~1998年, 火山性成層圏エアロゾルの動向-
- C155 松村貴嗣・林政彦(福岡大理)他7名 気球搭載型OPCによる北極域, 赤道域成層圏エアロゾル層の観測-赤道域成層圏における粒径分布-
- C156 永井智広・藤本敏文(気研・衛星)他11名 全球ライターネットワークを用いた成層圏エアロゾル層の観測

## オゾン

座長: 中島英彰(国立環境研)

- C157 乘原徹也・田中浩(名大水圏研) 名古屋上空におけるオゾンおよびその関連物質の変動
- C158 岩嶋樹也(京大防災研), 村松久史(名城大理工) 都市域とその周辺におけるオゾン濃度の変動
- C159 松川茂久・北和之(東大理)他 秋季大西洋域上部対流圏での窒素化合物の分布
- C160 川上修司・小川利紘(NASDA/EORC)他7名 1998年4月における対流圏上部13kmまでの大気微量成分の航空機観測
- C161 秋吉英治(国立環境研) 1次元結合モデルにおける臭素系反応のオゾン定常値およびその変動に及ぼす影響
- C162 入江仁士・近藤豊(名大STE研)他3名 1996/1997年冬季北極成層圏の脱窒の機構
- C163 川平浩二(福井県立大), 神沢博(国立環境研) 北半球冬季のオゾン変動-1998-97年の比較-
- C164 忠鉢繁(気研・環境) 南半球高緯度の極夜のオゾン全量

## [ポスターセッション(続き)]

- P138 比山憲二(地球フロンティア) 雲物理モデルと雲物理パラメータの比較 その1: 雲物理モデルにおける衝突併合過程の計算について
- P139 折笠成宏・村上正隆(気研・物理)他 雲粒子ゾーンの捕捉率の較正(1): 降雪粒子に対する捕捉率
- P140 巢山志津香・遊馬芳雄(北大院理)他3名 北極域のレーダーからの雲氷量の見積り方法の検討
- P141 永田雅・野村竜一(気象庁数値)他 数値モデル相互比較実験プロジェクトCOMPARE Case III-台風の強度予報を目指して-(その1)実験結果の検証と相互比較
- P142 小司直樹・青梨和正(気研・予報)他 GPS気象学1997年夏つくば特別観測で解析されたGPS可降水量の誤差に関する考察

## D会場

## 雲物理

座長: 山田芳則(気研・物理)

- D151 石田泰麿・早坂忠裕(北大大理)他5名 冬季北極域における雲及び赤外放射の観測
- D152 佐藤晃(大阪府教育), 梶川正弘(秋田大工学資源)他3名 北極域における厳冬季の水蒸気・エアロゾル・雪結晶の研究(WANTS-ARCTIC)-スウェーデン・ネオでの氷晶核・エアロゾルの観測(その2)-
- D153 高橋忠司・川戸典子(埼玉大教育)他2名 低温度で自由落下中に成長する雪結晶の形態[S]
- D154 堤玉裕樹・播磨屋敏生(北大院理)他1名 雪片粒径分布の地域特性
- D155 村上正隆(気研・物理), 池田明弘(新日本気象海洋)他5名 山岳性降雪雲の観測車による移動観測(その1)
- D156 村上正隆・宮尾みずほ(気研・物理)他3名 山岳性降雪雲に対する小規模モデリング実験(その1)
- D157 宮尾みずほ・村上正隆(気研・物理)他 航空機による山岳性降雪雲の内部構造の観測(1)
- D158 山田芳則・村上正隆(気研・物理)他 山岳性降雪雲内の雲水量と風向・風速との関係
- D159 遠藤菊郎・板野裕久(防大地球)他7名 関東地方夏季対流雲に対する液体炭酸による種撒き実験について
- D160 丸山祐理子・遊馬芳雄(北大院理)他2名 航空機による梅雨期の雲の微物理観測
- D161 折笠成宏・村上正隆(気研・物理)他 JACCS地上観測で得られた巻雲の微物理構造
- D162 梶川正弘・伊藤千晴(秋田大工学資源) ライターによる飛行機雲の観測(その2)
- D163 堤尻拓也・川野哲也(九大理)他1名 タイ・チェンライにおけるアジアモンスーン雨の降水システム-ヒートポンプ観測
- P143 松浦和夫・田中豊顕(気研・衛星) 光散乱による雨雪判別(第2報)-自然降水への適用-
- P144 三浦和彦・宮下春奈(東理大理)他4名 大気用カーボンモニターの性能実験
- P145 萩野谷成徳・直江寛明(気研・物理)他1名 チベットにおける自動気象観測(7)西チベットにおけるAWS観測
- P146 松田知也・橋口浩之(京大超高層)他3名 ミリ波ドップラーレーダーを用いた大気運動の観測法の開発
- P147 太森康徳・藤坂貴彦(三菱電機)他4名 35GHz帯マルチトロン雲霧レーダーのコヒーレント信号処理
- P148 足立宏・柴田隆(名大STE研)他2名 大気分子の偏光消滅と検出器の受光スペクトルの関係
- P149 藤本敏文・永井智広(気研・衛星)他2名 ライトライターによるオゾン観測

## 大会第2日 [10月21日] 09:15~11:30

(~~~~は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## 気候システム I

座長: 谷本陽一 (都立大地理)

- A201 児玉安正(弘前大理工), 浅井富雄(科学技術振興事業団)他3名 フェット高原とその東方における上層雲の日変化の位相について
- A202 三上岳彦・牛山素行(都立大)他2名 出島(長崎)における19世紀前半の気象観測記録(1)ー小氷期終了前後の気候変動解明に向けてー
- A203 牛山素行・三上岳彦(都立大)他2名 出島(長崎)における19世紀前半の気象観測記録(2)ー長崎における観測回数が平均気温に与える影響ー
- A204 真木太二(農環研) 1998年の冷夏予測結果と農作物被害
- A205 佐藤尚毅・高橋正明(東大気候システム) 夏の天候不順と地球温暖化
- A206 山元龍三郎・桜井康博(気象協会関西) 極端に激しい降雨現象の統計的空間スケールの算定
- A207 中澤哲夫(気研・台風), 岩倉晋(気研・環境) 気候データベースの利用について(第3報)
- A208 尾瀬智昭(気研・気候) 太平洋北アメリカパターン(PNA)/西太平洋パターン(WP)が強く見られるエルニョ年の熱帯西太平洋における特徴
- A209 栗原弘二(仙台管区), 磯部英彦(気象庁気候情報) 統計的に見たENSOと世界の気温・降水量との関係
- A210 村上多喜雄(ハワイ大名名誉教授), 松本淳(東大地理)他1名 西部北太平洋(WNPM)と東南アジア(SEAM)における夏のモンスーンの比較
- A211 隈健二(気象庁数値) 物理過程改良によるアジアモンスーンの再現改善へのインパクト
- A212 児玉安正(弘前大理工), 玉置篤志(弘前大地理) 熱源としての亜熱帯前線帯が大気循環に及ぼす影響について

## B会場

## メソ降水系 III

座長: 遠峰菊郎 (防衛大地球)

- B201 嶋村克(気研・予報) 1998年1月関東地方降雪時の地上温度解析
- B202 高山太・中村一(気研・予報)他 1998年1月8日の南岸低気圧による関東の大雪ーメソスケール場の解析ー
- B203 G.-W.Lee(Kyungpook National Univ.), 中村二(気研・予報)他3名 A Heavy Snowfall Event Occurred in the Kanto Plain from Jan. 8 to 9, 1998: Mean and Turbulence Characteristics of Cloud Systems
- B204 山田和孝(気象庁数値), 関東メソ解析グループ 関東地域メソ解析プロジェクト: 気象庁10kmメッシュを用いた同化予報実験
- B205 斎藤和雄(気研・予報), 山田和孝(気象庁数値)他1名 関東地域メソ解析プロジェクト, 非静力学モデルによる予報実験(序報)
- B206 清野直子(気研・環境), 斎藤和雄(気研・予報) MRI-NHMによる局地前線の数値実験
- B207 鈴木智幸・小林文明(防大地球)他2名 1997年8月下旬の北関東(前橋周辺)における雷雲発生の特徴
- B208 黒子智彰・小林文明(防大地球)他1名 相模湾における下層大気のプロファイラー観測ー1998年3月の観測結果ー
- B209 田口晶彦・奥山和彦(気象協会)他1名 発雷の大気環境ー関東地方における発雷・無発雷日の比較ー
- B210 植研三・鈴木修(気研・衛星)他3名 非降水エコーの出現特性: 大気環境 I
- B211 岩崎博之・三木貴博(群馬大教育)他1名 夏期の北関東域の対流活動と水蒸気変動(I)
- B212 細川尚・遠峰菊郎(防大地球) 関東地方の対流雲の発達に与える地形の影響
- B213 山本哲(気研・環境) 1997年12月7日から9日にかけて関東地方に発生した霧(1)霧の発生域と気象解析
- B214 山本哲(気研・環境), 栗原和夫(気象庁気候情報) 1996年10月29日から31日にかけて関東地方に発生した霧(4)気象庁日本域メソスケールメッシュ高解像度版による数値実験



## 大会第2日〔10月21日〕 09:15~11:30

(~~~~)は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## D会場

## 中層大気

## 座長：下舞豊志（京大超高层）

- C201 下舞豊志(京大超高层), B. Balsley(コロラド大) VHF/UHFレーダーで観測された鉛直流の緯度変化
- C202 西田真啓・津田敏隆(京大超高层) GPS掩蔽法を用いた大気重力波による温度変動のグローバル分布
- C203 藤東一・山崎孝治(北大院地球) 成層圏残差循環の長期変動について
- C204 植竹哲平(茨城大院理工), 長谷部文雄(茨城大理)他2名 赤道成層圏東西風QBOにおけるオゾンフットパットの効果 -CCSR/NIES AGCMを用いた解析
- C205 荻野徳也(京大超高层) 中緯度域下部成層圏における準2年周期振動の時間・空間構造
- C206 西吉壽彦・廣岡俊彦(九大理)他2名 オゾンホールシミュレーションに基づく大気大循環変動の評価
- C207 村田功・岡林昌宏(東北大理)他1名 上部成層圏におけるオゾン高度分布の波状構造
- C208 合屋研之・宮原三郎(九大理) 非静力学2次元モデルによる内部重力波シミュレーションー現実的な背景風中の重力波上方伝播ー
- C209 吉識宗佳・佐藤薫(京大理) 南極域重力波のデータ解析
- C210 二宮純子・宮原三郎(九大理)他1名 中層大気大循環モデル中の潮汐波変動の解析
- C211 山下造二・宮原三郎(九大理)他1名 大気大循環モデル中の大気潮汐波の解析
- C212 米満健・廣岡俊彦(九大理)他1名 大気大循環モデル中の10日波の出現特性について
- C213 三好勉信(九大理) 南半球における停滞性ロスビー波の励起源について
- C214 黒田友二・小寺邦彦(気研・気候) 南半球の二年周期変動について

## 観測手法

## 座長：青梨和正（気研・予報）

- D201 平沢尚彦(極地研), 木津暢彦(高層台) 気温急変時に於ける高層ゾーンのアイソバリック気圧計のエラーについて
- D202 青梨和正・小司禎教(気研・予報)他2名 1998年5-6月つくば市におけるマイクロ波水蒸気チャーターによる可降水量のグラデーションの観測(序報)
- D203 島田誠二(防災科研), 青梨和正(気研・予報)他2名 GPSレイ観測による水蒸気水平分布の高時間・空間分解能な検出手法について
- D204 劉兆崧・松井一郎(国立環境研)他1名 高分解のライダーによる雲、エアロゾルの散乱パラメータの測定
- D205 松井一郎・杉本伸夫(国立環境研) 小型ミッドレンジライダーによる大気構造の連続観測(III)
- D206 下田昭郎・小林博和(電中研)他1名 温室効果気体と衛星IMGの大気赤外放射スペクトルの検証
- D207 棚橋修二(富士通), 川村宏(東北大理)他2名 GMS-S-VISSR画像データによる広域日射量及び海面水温の推定及び解析
- D208 根塚昌樹・松並淳(東工大環境物理工)他2名 散乱光を高精度補正した直達日射量の測定とひまわり可視画像との関連
- D209 江瀬真人(東北大理), H. C. Graber(マサチューセッツ工大)他4名 ADEOS/NSCATによって観測された海上風ベクトルと海洋気象データとの比較

## 大会第3日 [10月22日] 09:15~10:50

(~~~~は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## 気候システムII

座長: 山崎信雄 (気研・気候)

- A301 森山茂・高原光子(日大生産工)閉鎖生態系の動態—  
酸素濃度21%は偶然か?
- A302 沼口敦(東大気候システム), 杉本敦子(京大生態研) 水  
の同位体循環モデルを利用した大陸スケール水循環の研  
究(2)-季節変化と陸面過程-
- A303 吉村裕正(気研・気候) Tiedtke積雲対流システムのMRI-  
JMA GCMへの導入
- A304 谷貝勇・栢原孝浩(防災科研)他1名 観測時間間隔  
の粗さによって生じる全球格子点データの誤差につ  
いて
- A305 谷貝勇・栢原孝浩(防災科研)他5名 防災科研にお  
けるGCMの開発とAMIP IIへの参加について
- A306 野田彰(気研・気候) 太平洋海面水温の自然変動と  
温暖化の空間パターンの類似性(4)何故似るのか
- A307 吉川郁夫・栗原和夫(気象庁エルニョ監視セ)他4名 大  
気海洋結合モデル空海<sup>1</sup>MAによるエルニョ予測実験
- A308 湯本道明・松浦知徳(防災科研)他2名 高解像度大  
気海洋結合モデルによって再現されたENSOと台風
- A309 西澤慶二(電中研), F. Giorgi (NCAR) NCAR-CCM3放  
射モデルを用いた地域気候モデルの開発

## B会場

## 中高緯度大気

座長: 平沢尚彦 (極地研)

- B301 高野功(気研・予報) 日本の南岸で急速に発達した  
冬の低気圧 1994年2月21日の事例解析
- B302 鈴木和史(衛星セ) 急発達する房総沖低気圧
- B303 高根沢良英・板野稔久(防大地球)他1名 衛星データ  
を用いた極低気圧に伴う雲の解析
- B304 遊馬芳雄・福田陽子(北大院理)他4名 ノルウェー海上  
のホラーローの航空機観測
- B305 木村詞明・若土正暁(北大低温研) ホーク海におけ  
る海水の動態 -NOAA AVHRR画像を用いた海水漂流  
速度の解析-
- B306 泉卓也・中村尚(東大院理) 冬の極東アジアモンスーン域  
における南北熱輸送の経年変動
- B307 田中博・野原大輔(筑波大地球)他1名 現実大気  
の順圧成分に見られるプロキシクの解析的研究
- B308 平沢尚彦(極地研) 南極大陸の内陸におけるプロキシ  
クの観測

## C会場

## 放射

座長: 深堀正志 (気研・物理)

- C301 岡本創(通総研鹿島) 非球形粒子の光散乱:氷粒子  
とエアロゾル
- C302 小林隆久・増田一彦(気研・衛星)他1名 大気補正に  
おける視野角近傍の雲の影響
- C303 黒田俊介・河本和明(東大気候システム)他1名 衛星搭  
載マイクロ波放射計と可視・近赤外放射計から得られた  
雲微物理量について
- C304 久慈誠(奈良女大理), 中島映至(東大気候システム) 航  
空機観測データによる海洋性低層雲の物理量の推定
- C305 青木二真・藤吉康志(北大低温研) 冬季ホーク海沿  
岸域のエロゾルの光学的特性について
- C306 青木輝夫・青木忠生(気研・物理)他1名 大気-積雪  
系の多重散乱モデルによる紫外域日射量に与える積  
雪面の影響
- C307 今須良二・田口彰一(資環研) 代替フロン物質の地球  
温暖化係数(GWP)評価に関する研究: III
- C308 深堀正志・青木忠生(気研・物理)他3名 2.0 μmに存  
在するCO<sub>2</sub>吸収帯の半値半幅の測定

## ポスター・セッション [10月22日] 11:00-12:15

(発表者はプログラム3ページ目の「ポスター発表に関する注意事項」お読み下さい)

概要紹介 (1件1分以内)の後、ポスター会場で講演を行う。講演者はポスターに表題と著者を明記して下さい。

**概要紹介：A会場 司会：小泉 耕 (気研・予報)**

- P301 真野裕三 (気研・気候) 非球形粒子の散乱方程式の数値計算 (2)
- P302 重久陽亮 (気大) 対流圏界面に捕捉された中間規模波動のトルコ効果 (2)
- P303 横永滄・近藤豊 (名大STE研)他3名 Seasonal and latitudinal variation of hydrogen cyanide observed at 19.5-67.9°N using ground-based infrared solar spectroscopy
- P304 榎本剛・松田佳久 (東大院理) ポスト-波東の低緯度反射のメカニズム
- P305 欺余震・住明正 (東大気候システム)他1名 Role of Transient Vorticity Fluxes in the Maintenance of Interannual East Asian Summer Monsoon Anomalies -A Diagnostic Comparison of 1993 and 1994
- P306 釜塚弘隆 (気研・台風) 1998年春～夏の熱帯太平洋の循環場と台風発生との関係
- P307 武田喬男・小山亮 (名大水圏研)他1名 台風の雲活動に見られる周期的な時間変化-GMS split window channelデータの解析-
- P308 R. Lindy・橋口浩之 (京大超高層)他7名 インドネシア・スマトラにおける境界層レーダー観測
- P309 渡辺明 (福島大教育), 立花義裕 (東海大文明)他15名 1998年アジアモンスーンの変動とその特徴
- P310 田丸英樹 (千葉大環境リサーチ), 岡田格 (科学技術振興事業団)他1名 GMS5号S-VISSR可視域センサの感度変化
- P311 永井友理・永尾一平 (名大水圏研)他1名 名古屋と御在所岳における大気オゾン濃度の動向, その比較
- P312 渡辺圭二 (名大水圏研), 佐藤和秀 (長岡高専)他3名 東南極沿岸部雪氷コア中の非海塩起源硫酸イオンおよび硝酸イオン濃度の変動特性
- P313 檀成顔・岩坂泰信 (名大STE研)他2名 ライターによって観測された韓国ソウルのエアロゾル
- P314 本戸瑞佳・長田和雄 (名大STE研)他3名 初冬季から春季にかけての自由対流圏エアロゾル中の化学成分
- P315 小林博和・下田昭郎 (電中研) ADEOS衛星搭載温室効果気体センサIMGの標準プロダクトの評価
- P316 石井昌憲・柴田隆 (名大STE研)他6名 ライターによるカナダ北極圏Arctic Hazeの観測 (3)
- P317 吉門洋 (資環研), 魚崎耕平 (気象協会) 濃尾平野の冬季高濃度汚染日の気象構造
- P318 猿股弥生・松永捷司 (名大STE研)他6名 北極航空機観測 (AAMP98)による北半球中・高緯度の下部成層圏-対流圏の硫化カルボニル (COS)の濃度分布
- P319 初鹿宏壮・山崎孝治 (北大地球環境) 対流圏界面の季節変動と圏界面付近の物質輸送の見積もり
- P320 松本淳 (東大地理), 沼口敦 (東大気候システム)他1名 G-AME IOP期間のアジアモンスーン域の大規模場の概況 (速報)
- P321 佐々木秀孝・佐藤康雄 (気研・環境)他1名 気象研究所局地気候モデル (120km格子)の性能評価
- P322 太泉三津夫・柴田清孝 (気研・気候)他3名 気象研究所共通気候モデルによるAMIP IIラ
- P323 鈴木力英 (地球フロンティア), 田中直実 (筑波大環境) シベリアにおける植生インデックスの気候学的分析
- P324 野村千尋 (東北大地理) 東アジア及び東南アジアにおけるコールドサージの変動と熱帯大気への反応

**概要紹介：B会場 司会：野沢 徹 (国立環境研)**

- P325 石田祐寛 (弘前大理工) 自然対流時における粗度物体配置の顕熱輸送量に与える影響 (2) -粗度物体の高さと間隔比-
- P326 川平浩二 (福井県立大), 小島覚 (富山大理) 北方針葉樹林帯の活性化の特徴
- P327 木下真美・加藤真規子 (気研・物理) WAVELET解析でみた乱流の微細構造 (4)-風洞実験との比較
- P328 太橋唯太・木田秀次 (京大院理) 複数都市存在下におけるヒートアイランド循環と海風循環の相互作用に関する数値実験
- P329 篠田太郎・上田博 (北大院理)他1名 石狩平野を想定した海風の数値実験
- P330 吉川寛康・橋口浩之 (京大超高層)他5名 境界層レーダーとソーラーを用いた大気境界層の同時観測
- P331 藤原文昭 (気研・予報) 日本における強雨発現頻度の日変化
- P332 武田喬男・間瀬剛史 (名大水圏研)他10名 長崎半島からのびるバンド状霧の形成と発達過程~1997年7月の長崎・天草観測~
- P333 久芳奈遠美 (地球フロンティア) 雲物理モデルにおけるbulk法とparticle法の比較 その1 雲水の生成と雨水の生成 (warm rain)
- P334 扇澤一平・前川泰之 (大阪電通大)他4名 レーダー境界層レーダーによる若狭湾沿岸における冬季雷雲観測
- P335 前田修平 (気研・気候), 小林ちあき (気象庁気候情報)他2名 プロセキングの持続と総観規模擾乱との関係について
- P336 本瀬若桜・系正義 (三菱電機)他4名 地上用雷電探知装置における事例検索による発雷予測精度改善
- P337 保坂征宏 (気研・気候) MRI/JMA98モデルの並列化
- P338 野原太輔・田中博 (筑波大地球) 現実大気の大気成分に対する予測可能限界の研究
- P339 坪田幸政・松本直記 (慶應高校)他1名 学校気象ネットワークの構築
- P340 浅野正二・内山明博 (気研・気候)他3名 気象研究所 JACCS/ACROS (航空機雲放射総合観測システム)による層積雲微物理特性のリモートセンシングと検証
- P341 對馬洋子 (地球フロンティア), 沼口敦 (東大気候システム) SSM/Iデータを用いた雲水総量の季節変動の領域別特性の解析
- P342 中井真人 (防災科研) T<sub>BB</sub>が-40°Cの雲の高さは?
- P343 林正康 (資環研) NDVIの簡易測定
- P344 村治能孝・緒方俊久 (エプシロン)他3名 簡易型放射温度計による地表面温度測定について
- P345 川上真哉・森厚 (東京学芸大)他2名 PCを使った微小スケールの気象観測 [PCによるデータあり]
- P346 橋口浩之・森谷優貴 (京大超高層)他4名 可搬型レーダー下部対流圏レーダーの開発
- P347 河野直美・山本衛 (京大超高層)他1名 MULレーダー干渉計法を用いた鉛直流の研究 T9708の観測
- P348 赤井泰夫・神崎隆男 (電中研) 移動型ラレーダーの開発 -単一音波パルスによる温度プロファイルの観測方法-

## 大会第3日 [10月22日] 午後・～17:30

\*)開始時刻はセッションによって異なります

(~~~~)は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## スペシャル・セッション

## 「熱帯降雨観測衛星 (TRMM) とその初期結果」

(13:00～17:30)

座長: 中村健治 (名大水圏研)

- Intr. 中村健治 (名大水圏研) TRMMの概要とデータについて
- A351 古川欣司・清水収司 (NASDA/EORC) 他3名 TRMM/PRの地上レーダによる初期検証 (石垣・宮古TRMMキャンペーン実験)
- A352 花土弘・佐藤晋介 (通総研) 他5名 石垣・宮古TRMMキャンペーン実験 (IMCET) - 衛星搭載降雨レーダと航空機搭載降雨レーダとの比較
- A353 池理子 (NASDA/EORC), 鈴木靖 (リモートセンシング技術) 他2名 TRMM降雨レーダによる降雨観測と雨量計との比較
- A354 清水収司・古川欣司 (NASDA/EORC) 他1名 チベット高原に設置したNASDAドップラーレーダによる熱帯降雨観測衛星 (TRMM) の検証
- A355 米山邦夫・矢野敏彦 (JAMSTEC) 他8名 「みらい」ドップラーレーダによるTRMMとの同期観測
- A356 山本, M. Hirose (名大水圏研) 他1名 A Preliminary Comparison of TRMM-PR with Ground-based DSD Data
- A357 藤原昌己・上田博 (北大院理) 他4名 中国大陸上の梅雨前線を対象としたTRMM搭載降雨レーダ検証実験
- A358 井上豊志郎 (気研・気候) VIRSによる雲情報とPR/TMIによる降水情報の比較
- A359 河崎善一郎・吉橋幸子 (大阪大院) 他1名 雷活動の衛星観測と地上観測による検証
- 座長: 中澤哲夫 (気研・台風)
- A360 吉崎正憲・斉藤和雄 (気研・予報) 他12名 '98東シナ海・九州特別観測 (X-BAIU-98) の概要とTRMM比較観測の速報
- A361 可知美佐子・柴田彰 (NASDA/EORC) 他2名 TRMM/TMIによる海面水温観測 [V]
- A362 中島孝 (NASDA/EORC) TRMM/VIRSを用いた雲微物理パラメータ解析
- A363 斎梨和正 (気研・予報) 衛星搭載マイクロ波放射計データを用いた梅雨前線帯の解析 (序報)
- A364 高橋勲 (桜美林大), 川野哲也 (九大理) 他2名 アジアモンスーン降水機構の研究
- A365 中澤哲夫 (気研・台風) 1998年前半に台風はどうして発生しなかったのか
- A366 高森縁 (国立環境研) 97/98エルニーニョ終息期の地球をめぐる降水活動

## B会場

## 大気力学 (13:30～17:30)

座長: 石岡圭一 (東大・数理)

- B351 田辺(野村)真佐子・余田成男 (京大院理) 0次元エネルギー収支モデルにおける確率共鳴 (stochastic resonance)
- B352 谷口博・石渡正樹 (北大院地球) 東西一様基本場に於ける慣性不安定のメカニズム
- B353 坂野登久 (防大地球), 石川裕彦 (京大防災研) 他1名 負の渦度を持つ軸対称準地衡流の線形安定性解析
- B354 伊賀啓太 (九大・応力研) 波の共鳴として考えるシアー不安定
- B355 佐久間弘文 (地球フロンティア) 2次元成層シアー流非線形安定性解析結果に対する考察
- B356 三村和男 (東海大教養) 熱対流がローレンツ・カスになる条件
- B357 太河内康正 (八代高専), 羽田亨 (九大院総理工) 対流パターン形成に及ぼす大規模鉛直流の場の影響
- B358 森厚 (東京学芸大) 底面での局所的な冷却によって生じる2次元の流れ (続報) - 回転の効果と成層の効果
- B359 新野宏 (東大海洋研), 森厚 (東京学芸大) 水平対流の相似解とヒートイベント循環の形成機構
- B360 余田成男 (京大理), 石岡圭一 (東大数理) 他2名 回転球面上の減衰性2次元乱流における周極渦の形成 [V]
- B361 水田亮・余田成男 (京大理) 成層圏周極渦を想定した準周期的な流れ場におけるカオスの混合
- B362 宇加治二雄・玉木克美 (福岡大理) 定常な環状傾圧波の数値実験
- B363 赤堀浩司・余田成男 (京大理) 対流圏界面付近の物質移動と長周期変動

## 大会第3日 [10月22日] 午後・～17:30

\*)開始時刻はセッションによって異なります

(~~~~)は講演者を表す。[S]=スライド使用予定、[V]=VTR使用予定)

## C会場

## 環境気象・境界層 (13:30～17:30)

座長: 福山 薫 (三重大)

- B364 堀之内武(ワシントン大) 中層大気版CCM3の赤道域下部成層圏に入射するRossby波 —伝播・作用・Rossby重力波の励起—
- B365 思口正和(京大理), 山家孝司(アルモコス)他1名 全球三次元プリティブモデルを用いた冬季成層圏循環の表面地形依存性に関するパラメータ実験
- B366 田宮久一郎(気研・予報) 等価深度の浅いモードの初期値化:線形化した動的初期値化
- B367 伊賀賢二・松田佳久(東大理) 金星の高速東西流について(2)-順圧不安定と子午面循環を考慮した10層モデル—
- B368 山本勝(名大水圏研) 金星の惑星スケール重力波とCloud Feedback Heatingについて
- B369 稲田愛・向井正(神戸大自然)他1名 Mars Imaging Camera (MIC)での観測計画;火星の朝霧・夕霧の観測
- C351 藤谷泰資(イソ情報研・神戸電波) 気温, 相対湿度による大地震の前兆現象(II)-1948年6月28日の福井地震—
- C352 杉田孝史(NASDA/EORC), 近藤豊(名大STE研)他6名 SONEX期間中に上部対流圏で測定された航空機排気のNOx Emission Index(2)
- C353 岩倉賢・岡田菊夫(気研・環境) 東京国際空港における卓越視程と相対湿度の関係
- C354 中川清隆(上越教大自然), 岡本理絵(群馬県西部教育事務所) 高知県足摺岬における山本の大気混濁係数 $\beta$ の最近50年間の変動
- C355 志野朗子・山澤弘実(日本原研)他1名 ETEXデータを用いた長距離拡散モデルの検証
- C356 福山薫・Sanga-Ngoie K. (三重大生物資源)他1名 伊勢湾周辺における夏季の光化学オゾン汚染の空間・時間変化について
- C357 杉本伸去・松井一郎(国立環境研)他5名 ジャカルタにおける大気境界層のライク観測
- C358 上野健二(滋賀県立大), 広田知良(北海道農試) ネットワークにおける自動気象観測とフラックス算定の試み
- 座長: 中川清隆 (上越教育大)
- C359 田中健路・石川裕彦(京大防災研)他 GAME/Tibet 1998年集中観測データを用いた地表面エネルギー収支の解析(序報)
- C360 玉川二郎(名大水圏研), GAME-Tibet境界層グループ GAME-Tibet境界層観測における乱流特性量の解析(速報)
- C361 真江寛明(気研・物理) 不安定対流混合層内における乱流渦の生成過程
- C362 中川清隆(上越教大自然) ストリートキャニオンのアルベドの数値シミュレーション
- C363 桑形慎男・濱寄孝弘(東北農試)他1名 水田水温に関する基礎的研究-稲の生育が水田水温に及ぼす影響の定量的な評価—
- C364 菅原広史(防大地球) トランス法による広域地表面熱収支の実測
- C365 足立アホロ・小林隆久(気研・衛星)他3名 境界層レーダーを用いた“局地前線”の鉛直構造の解析
- C366 佐藤尚毅・高橋正明(東大気候システム) 冬の岡崎平野における低温化～なぜ岡崎は寒くなるか?～

## 研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

### シンポジウム「気象学に開かれゆく世界」のお知らせ

日時：1998年10月19日（月）午後2時～5時

（秋季大会の前日午後）

場所：宮城県民会館（日本気象学会秋季大会のA会場）

テーマ1：共通概念としての「対流」をめぐる

（講演者）柳澤孝寿 固体地球から  
吉村宏和 宇宙から  
酒井孝太郎 海洋から  
新野 宏 大気から

テーマ2：地球フロンティア研究システムの概要

（講演者）松野太郎

主催：日本学術会議気象学研究連絡委員会世話人グループ

〔後半〕座長：里村雄彦（京都大学大学院理学研究科）

・萬納寺信崇（気象庁数値予報課）気象庁数値予報の

局地前線は（どのように）表現されるか？

・新野宏（東京大学海洋研究所）局地循環と重力流の力学

・安田延壽（東北大学大学院理学研究科）他 熱的局地循環の鉛直スケールのパラメータ化

・斉藤和雄（気象研究所）海洋性大陸上の日変化性対流の数値シミュレーション

・里村雄彦（京都大学大学院理学研究科）熱帯山岳地帯のスコアライン

〔総合討論〕座長：岩崎俊樹（東北大学）

〔コンピナー：岩崎俊樹（東北大学）〕

### メソ気象研究会

日時：10月19日（月）14:30～18:50

場所：B会場（宮城県民会館602）

テーマ：局地前線の形成と運動

趣旨：

局地前線はシャープな日変化を起こしたり、しばしば顕著なメソ現象のトリガとなるなど、毎日の天気予報にとっても油断のならない予測対象である。また、下層の大気質を支配する因子として大気汚染の予測にも重要である。

これまで局地前線は数値予報の対象外としてその予測の判断は予報官の経験に委ねられてきた。しかし、局地循環の再現はメソ数値予報の改善のために避けて通れない問題である。数値予報モデルは解像度が向上し物理過程の表現も改善されており、局地循環や局地前線をあらためて予測対象として取り上げる時期である。

局地前線の形成には大気地表面相互作用や地形が深くかかわっている。スコアラインなどの内部構造として形成される場合もある。また、密度差のために重力流として特殊な振る舞いをする。

今回のメソ気象研究会では多様で複雑な局地前線に焦点をあてて、その形成（または変質）や運動のメカニズムを整理するとともに、数値モデルの改良や実際の予報の改善方法なども含め今後の研究課題について議論する。

講演

〔前半〕座長：藤部文昭（気象研究所）

・中田隆一（気象庁予報課）関東地方の局地不連続線と大気汚染

・中三川浩（仙台管区气象台）他 仙台平野に現れる局地前線

・甲斐憲次（名古屋大学）他 ライダーネットワーク観測から明らかにされた、ダスト前線の都心通過現象—1995年8月—

・藤部文昭（気象研究所）メソ前線の日変化と“暖気侵入型海風”の気候学的特徴

・吉門洋（資源環境研究所）冬季関東地方に生ずる局地前線の観測的研究

・清野直子（気象研究所）寒冷前線接近時に生じる局地前線の鉛直構造

### 極域・寒冷域研究連絡会

日時：10月22日（木）17:30頃～2時間程度

場所：B会場（宮城県民会館602）

1) 一般講演：

・吉村悟（東北大学大学院）

グリーンランド海およびバレンツ海におけるCO<sub>2</sub>循環に関する研究

・山崎剛（東北大学理学部）

寒冷域陸面過程のモデル化とシベリアへの適用

・菅原敏（宮城教育大学）

北極圏航空機観測(AAMP98)における微量気体観測

2) 南極観測第6期5カ年計画に向けての討論

代表：木村竜治（東大海洋研）

世話役：平沢尚彦（極地研）

高田久美子（国立環境研）

阿部彩子（東大・気候システム）

浮田甚郎（地球フロンティア）

中村尚（東大・理）

本田明治（地球フロンティア）

### 第15回IGBP/GAIM研究会のお知らせ

下記の日程で第15回のGAIM研究会を開催します。

開催日時：1998年10月23日（金）午前9時30分～12時

場所：東北大学

内容：招待講演（45～60分）と自由発表（20～30分）

詳しくは、大会会場に掲示します。

研究会では、地球圏と生物圏との間の相互作用を研究されておられる方の講演を募集いたします。希望者は、1998年10月12日（月）までに、講演題目をFAXかe-mailでご連絡下さい。

講演申し込み先：

〒305 つくば市天王台1-1-1

筑波大学 生物科学系 及川 武久

(TEL&FAX) 0298-53-6661

(e-mail) toecolog@sakura.cc.tsukuba.ac.jp